

科目分類		養護教諭課程		開講学科	看護学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
14004	2	後期	選択	1	15
授業科目名 (英文)		教育制度論 (Systems of Educational Institutions)			
担当教員名		栗原 麗羅			
授業の概要及び到達目標					
< 概要 > 教職に関する科目「教育の基礎理論に関する科目」に相当し、教育現場である学校や地域の状況を理解し、教育に関する制度的・経営的・社会的事項を系統的に学ぶ。 < 到達目標及びテーマ > ・教育制度の基本事項を理解し、説明できる。 ・教育制度の現状と課題を理解したうえで、教育制度に関する自身の意見を論述したりアクションペーパーを作成することで、テキストおよび授業から学んだことを省察できる。 ・自らの教育経験および授業内容を参考に教育制度に関する研究課題を設定し、考察を行った結果をレポートの形で発表できる。 テーマを教育に関する法律、学校制度、教職員制度、教育行政とする。					
準 備 学 習 等					
第1回授業	テキストの第1講を熟読し、教育制度を学ぶ理由を考える。また、第2講を熟読し、子どもの権利条約がどのような機能を果たしているのかを理解する。				
第2回授業	テキストの第4講を熟読し、学習指導要領および教科書検定制度の役割を理解する。				
第3回授業	テキストの第5～7講を熟読し、教育基本法における教育の目的・目標について理解する。日本の「学校」にはどのような種類があるのかを考える。				
第4回授業	テキストの第8講を熟読し、義務教育の存在意義や「義務」とは何かを考える。				
第5回授業	テキストの第9講を熟読し、特別支援教育をはじめとするすべての子どもの教育機会を保障するための制度について考える。				
第6回授業	テキストの第10、11講を熟読し、教職員制度の概要と文部科学省および教育委員会の役割を理解する。				
第7回授業	テキストの第15講を熟読し、学校と保護者や地域住民が協力して作り上げる学校とはどのようなものかを考える。				
第8回授業	新聞記事やインターネット検索等で学校生活にはどのような危険があるのかを調べるとともに、どのような安全対策を講じるべきなのかを考える。これまでの授業で学んだ内容のまとめを行う。				

成績評価の方法	授業への参加態度 20%、リアクションペーパー 30%、期末レポート 50%。
テキスト	川口洋誉・中山弘之（編著）、「未来を創る教育制度論」改訂版、北樹出版、2014年。
参考図書	田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二、「やさしい教育原理」第3版、有斐閣アルマ、2016年。 必要に応じて、授業内容に関連する新聞記事等の資料を配布する。
備考	リアクションペーパーに記された意見・疑問点に関して、授業内で議論や解説を行う。期末レポートは、研究課題と結論との対応関係、レポートの論理構成、考察内容の妥当性、文献明示の適切性等を評価し、返却する。
授 業 計 画	
第1回	教育制度を学ぶことの意味、子どもの権利条約の制定と日本における子どもの権利保障
第2回	学習指導要領と教科書検定制度
第3回	日本の学校制度－教育基本法・学校教育法における「学校」とは？
第4回	義務教育の制度－義務教育の「義務」とは何か？
第5回	特別支援教育の制度－すべての子どもの学び・発達が保障される教育制度とは？
第6回	教育行政の制度－文部科学省および教育委員会の役割
第7回	学校関係者による学校支援の制度－「地域に開かれた学校」とは何か？
第8回	学校における危機管理－校内および登下校時の安全対策、アレルギーおよび災害への対応